

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
4	27	二宮靖男 毛利英美子	<p>天候：曇り 参加者：20名 報告者：二宮靖男 テーマ：樹の花 野の花 竹林の筍 この日、樹の花、新緑の葉の展開など立夏間近を伝える風景が園内随所に見られました。</p> <p>○樹に咲く花・果実 今年の藤棚は、昨年と比べて「隔年開花」の傾向があるのか花数が少ないようでした。C16近くのカワズザクラは早咲きならではの果実の生長ぶり、早くも赤く染まったサクランボ。ミズキは棚状の枝に白い雪のような花が満開。ユリノキは大木の枝が垂れ下がり、間近な高さで観察、チューリップツリーの美しさにみなさん感嘆。御衣黄（ギョイコウ）は、すでに花後も落花で観察、毛利さんから鬱金との差異なども説明いただきました。</p> <p>○野の花 園内草地のオニタビラコ、オオジシバリ、ハルジオンなど多くの野草が花盛り。今回、都市公園では希少なカントウタンポポにスポットを当てて各種の特徴と分布状況など説明しました。日本庭園ではモウソウチクの筍の形状と生長力について、竹林に咲くアヤメ属のイチハツが筍の隣で、美しくコラボしていました。このほかハルガヤのクマリンの芳香、スズメノヤリのタネにつくエライオソームなどサンプルを見せてアリ散布の説明などしました。終了後、公園ボランティアの人の情報で、キンラン、ギンラン、マツバラ、ヒトツバタゴ（ナジャモンジャノキ）なども確認しました。</p>	 <p>カントウタンポポ カントウタンポポは、総苞外片が反り返らず、先端に突起がある特徴がある。県内には、このほか、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、ウスギタンポポ、シロバナタンポポ、エゾタンポポなどが分布している。セイヨウタンポポなどの交雑種が多い中、今や都市部では希少な存在である。「レンゲ、タンポポ、スマレソウ」は、かつて春を彩る代表的な野の花の一つであった。</p>	 <p>モウソウチク 「竹の秋」という言葉がある。春には筍に養分がいくことで、葉が黄ばみ、落葉する様からこう呼ばれる。俳句の季語でもある。いま、竹の子は旬の食材で、筍御飯、若筍煮、お吸い物、とれたては刺身にもなる。筍は「竹冠に旬」と書く。一句は10日のこと。筍は10日で竹になる成長力を言い表している。松竹梅でおなじみの瑞祥植物である。</p>	

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
5	25	佐藤善治 久保雅春	<p>天候：晴れ 参加者：16名（30名程度の申込があるものの、当選者を20名に絞った後、キャンセルあり。今後はキャンセル待ちを5名程度とればどうか） 報告者：久保雅春 テーマ：初夏の景観を楽しむ 日差しが強く、初夏の景観を楽しむことが出来た。 ○人数が16名となったため、2班に分け、間隔を開けてガイドした。 ○常緑樹の葉っぱの入れ替えを楽しんだ。クスノキ、サンゴジュ、サザンカ、ツバキ、シラガシなど。 ○俳句の季語を楽しんだ。初夏の季語（楠若葉、楠落葉）、春の季語（竹の秋） ○シャリンバイとトベラノキを対比して観察した。 ○木本の花、実を楽しんだ。ハコネウツギの花、ヤマボウシの花、サツキの花、スイカズラの花、クワの実、ロウバイの実など。 ○サツキとツツジを生育場所から対比して、葉の大きさ、背の高さを比較して観察した。 ○草本を楽しんだ。花としてはコウゾリナ、ニワゼキショウ、ノミノツヅリなど。残念ながら、アヤメは花が終わっていた。写真にて、アヤメ、ノハナショウブ、カキツバタを比較して、特徴・生育場所を確認した。 ○水生植物の花を楽しんだ。スイレン、コウホネ。 ○最後に万葉植物園のマルバウツギの花に思いを馳せ、「夏は来ぬ」の歌を合唱して終えた。</p>			

常緑広葉樹と言っても、同じ葉が何年にも亘ってついているのではなく、定期的新旧交代が行われている。
 すべての葉が入れ替わるサイクルは樹種によって異なるが、クスノキの場合はほぼ一年交代となり、5月初旬～中旬のこの時期に一年間使い古され、落とされてしまう葉を「楠落葉」、それと入れ替わるように新たに展開する葉が「楠若葉」と呼ばれ、どちらも俳句の世界では初夏の季語になっている。

江戸時代に幅広く愛好された園芸植物のひとつにツツジがある。当初、ツツジとサツキは一つの括りにされていたが、1692年（元禄5年）に江戸近郊染井村植木屋伊藤伊兵衛が著した「錦繡枕」という書物の中でツツジとサツキが明確に分けられた。サツキは旧暦5月（現在の6月頃）に咲くのでそう名づけられた。
 さて、葉の大きさに注目。ツツジに比べてはるかに小さく、細長く、樹高も低いのが特徴。これはツツジ（ルーツは山沿い）と異なり発生のルーツが常に増水の危険のある溪流沿いにあるため。

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
6	22	辰尾俊明 渡辺英城	<p>天候：晴れ 参加者：18名 報告者：渡辺英城 テーマ：迷木巡り～樹木の形の違いを 探る～</p> <p>梅雨期が近づき天候が心配されましたが、幸いこの日は好天に恵まれました。人数は18名でしたが、みんなで観察し考える、という部分に重点を置きましたので、班分けなしで進行しました。(但し、小型拡声器1台使用)</p> <p>内容としましては、これまでに公園内で見つけた変わった樹木(姿形、枝振り、根張り)の樹木を数点観察することをメインとし、併せてその他の樹木において、樹形、枝、葉の付き方など形態の違いについて比較しました。</p> <p>またこの時期の花として、定番であるアジサイの観察と、参加者のお子さんの見つけたキノコ(イグチ科)など観察。 ＜観察した主な動植物＞</p> <p>モミ、キンモクセイ、ピラカンサ、ヤマハゼ、アジサイ、サルスベリ、イロハモミジ、モチノキ、サクラ、エノキ、ムクノキ、ヒイラギモクセイ、ヒマラヤスギ、スダジイ、サワラ、タラヨウ、ユリノキ、カイヅカイブキ、キノコ(イグチ科)、ムクドリなど</p>			

6月の花 アジサイ
 ガクアジサイ(額紫陽花)
 アジサイ科 アジサイ属

- ・分布 本州、四国の沿海地の林に分布
- ・花期 6～7月
- ・名前の由来

両性花の集まりを囲う装飾花を額に見立てたことからガクアジサイの花序全体が装飾花に変化したものが、アジサイ(ホンアジサイ)と呼ばれます。園芸の世界では、装飾花が花序の周辺部を縁取るように並ぶものを「額咲き」と呼び、花序が全て装飾花となったものが「てまり咲き」と呼ばれます。

針葉樹と広葉樹

左 モミ(樅)
 マツ科 モミ属




右 キンモクセイ(金木犀)
 モクセイ科 モクセイ属

樹木は種類やグループの違いにより姿形が違い、また環境の違いによっても個別の樹木により姿形が異なります。

公園内には沢山の樹木がありますが、中には不思議な形をした樹木があります。変わった姿形の樹木を観察し、どうしてそうなったのか考えてみましょう。

○キーワード：『頂芽優勢』
 頂芽の成長が優先され、側芽の成長が抑制されている状態のこと

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
9	28	善宝俊文 毛利英美子	<p>開催日時：2024年9月28日（土） 10：00-11：14 天候：晴れ（半袖で快適な気温） テーマ：『ようやく秋』 参加者：17名（児童1名、未就学児（ベビーカー）1名含む） （申し込み17名、スタート時2名いらっ しゃっていませんので、15名かも知れま せん） 報告者：毛利英美子 スピーカー使用。班分けせず1つのグ ループとして行動。 途中、マテバシイの実（炒ったもの）、 試食。参加者から「栗に似ている」などの 感想。その他、エノキ、ムクノキの実も試 食。五葉に分かれた松の葉の観察やカツラ の葉の香りを体験していただいた。</p> <p><観察した主な動植物> マテバシイ、イチヨウ、サルスベリ、コス モス、コキア、チャノキ、エノキ、ヒマラ ヤスギ、スダジイ、モチノキ、コメツガ、 トウカエデ、ストロブマツ、ユリノキ、 ムクノキ、カツラ、ヤマモミジ、イロハモ ミジ、キンモクセイ、トチノキ、ハナミズ キ、オンブバッタ</p>	 <p>コスモス キク科コスモス属の一年草。メキシコ原 産。明治時代に日本に伝わり、全国に普 及。日本人の好きな花の上位にランキン グされている。秋桜。花言葉は、乙女の真 心、謙虚、調和。コスモスはギリシャ語の 「秩序」「飾り」を表す「Kosmos」に由来 するが、宇宙の意味もある。</p> <p>コスモスの花のあそびをる虚空かな 虚子</p>	 <p>マテバシイ ブナ科マテバシイ属の常緑広葉の高木。 虫媒花。雌雄同株。果実は渋みがなく食用 になる。春に開花し受粉、翌年の秋に成熟 する2年成。もともとは九州南部・南西諸島 の木であるが、公園樹・街路樹として関東 でも普通にみられる。シイ属のスダジイ、 ツブラジイも食用になる。</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・9月28日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
10	19	河野 満 松本 薫	<p>開催日時：2024年10月19日(土) 10:00-11:15</p> <p>天候:晴れ(天気予報では最高気温30度の真夏日)</p> <p>テーマ:旅する植物:種子散布を楽しむ</p> <p>参加者:8名(申し込み9名)</p> <p>報告者:松本 薫</p> <p>スピーカー使用。班分けせず1つのグループとして行動。季節外れの桜の開花が話題にあがった(集合場所近くの桜も数輪開花していた)。</p> <p>種子散布に着目し、動物散布や風散布の違いを実際に観察しながら解説した。</p> <p>他の話題として、ヤマボウシとハナミズキは近縁なのに散布動物が違う? 追熟は地上性哺乳類のための仕組み? モチノキの果実はダミーがあったり、虫に支配されている? 菌根菌ネットワークと種子散布方式の関係、など。</p> <p><観察した主な植物たち></p> <p>ピラカンサ、ヤマグワ、ウラジロモミ、テングタケ科のキノコ、サクラsp.、キンモクセイ、マテバシイ、チヂミザサ、チカラシバ、ヤマボウシ、トウネズミモチ、モッコク、イチョウ、イロハモミジ、サルスベリ、アジサイ、スダジイ、モチノキ、ムクノキ、ヒイラギモクセイ、ユリノキ、カラスノゴマ、キンミズヒキ、ササクサ、フユノハナワラビ</p>	 <p>キンミズヒキ(バラ科) <i>Agrimonia pilosa</i> var. <i>japonica</i></p> <p>北海道～九州の低地、山地にふつうに生える。花弁は5枚で黄色、葉は5～9個の小葉からなる。雄しべは8～14個。よく似たヒメキンミズヒキの花弁は細く、雄しべの数は5～6本。細長い黄色の花穂を「金色のミズヒキ」にたとえたものである。果実にはカギ状に曲がった棘が密生しており、ひつつき虫とも呼ばれる。この棘が衣服や動物の毛などに引っかかって散布され、広範囲に分布する。</p>	 <p>サルスベリ(百日紅)(ミソハギ科) <i>Lagerstroemia indica</i></p> <p>サルスベリは数性が6の珍しい植物。萼は6枚、花弁も6枚。中央には雌しべと多数の雄しべがあるが、その周りをより長い6本の雄しべが取り囲んでいる。また、果実は内部が6つに分かれている。これが一つの花の単位となり、円錐状に並んだ花の塊(円錐状花序)を作る。中国南部原産、世界の熱帯各地に分布する。熱帯でない日本では落葉樹。日本には江戸時代以前に渡来したと言われている。</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・10月19日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
11	23	芳野光夫 辰尾俊明	<p>開催日時：2024年11月23日（土） 10:00～11:30</p> <p>天候：快晴</p> <p>テーマ：宝探し（木の実や紅葉した落ち葉を捜しながら歩きます）</p> <p>参加者：20名</p> <p>報告者：辰尾俊明</p> <p>最初に本日のテーマに沿って自分が宝物と思う物を拾って入れておく 小さな透明なビニール袋を参加者に配った。それから予定のコースを参加者全員が何か珍しいもの、綺麗なものを拾おうと下を観ながら歩きました。</p> <p>ドングリはマテバシイやスダジイ、コナラやクヌギ、アラカシやシラカシの実を見つけて、ドングリ以外の木の実ではエノキの実やユリノキの実、トウネズミモチの実、アカシデの実、メタセコイアの実などを見つけて袋に入れていました。</p> <p>落ち葉についても色とりどりの落ち葉を見つけました。タイサンボク、マテバシイ、エノキ、ミズキ、イチョウ、ユリノキ、トウカエデ、カツラ、ケヤキなどの落ち葉を拾って袋に入れていました。</p> <p>木の実にはベージュ、茶色や黒系色の地味な色の宝ものでしたが、落ち葉は赤や黄色、茶色、緑色など華やかな宝物となり、当日の参加者で唯一の小学生は袋がパンパンになるほど詰め込んでいました。木の実の色は地味でしたが、ユリノキ木ではまだ木に残っている実を女子小学生が長い棒で枝を揺ると風に乗って沢山の種がプロペラのように飛び散り思いがけないパフォーマンスを披露してくれました。</p>	 <p>落ち葉</p> <p>タイサンボク、マテバシイ、エノキ、ミズキ、イチョウ、トウカエデ、ユリノキ、ケヤキ等の落ち葉を拾うことが出来ました。まだ紅葉が始まったばかりの木もあり、これから本格的な落ち葉の季節となります。</p>	 <p>木の实</p> <p>コナラやクヌギ、マテバシイやスダジイ、アラカシなどのドングリやエノキの実、ユリの木の実、トウネズミモチやアカシデの実、メタセコイアの実などを見つけて拾いました。まだまだ、ドングリやその他の木の実がたくさんありました。</p>	 <p>今日歩いたコースは・・・11月23日(土)</p>

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
12	21	二宮靖男 善宝俊文	<p>開催日時：2024年12月21日（土） 10：00～11：15</p> <p>天候：快晴 参加者：13名 テーマ：冬芽・残果と冬の花サザンカ (サブテーマ：散歩道のロゼット・残菊・林床の草紅葉も楽しむ) 報告者：善宝俊文</p> <p>朝方の冷え込みとは打って違って小春日和のぼかぼか陽気の中での開催となった。</p> <p>五感を使って初冬を楽しみましょうとの掛け声でスタートし、二宮さんの豊富な知識と軽妙な語り口の中、参加者はメモを取りながら興味深々と楽しんでいる様子がうかがえた。</p> <p><右記以外に観察したもの>ピラカンサの実、カワヅザクラの樹皮、キンモクセイの樹皮、ヤマザクラの冬芽、ハルジオン等のロゼット、アジサイの冬芽、エノキの実と落枝痕、ムクノキの樹皮、スダジイとツブラジイの違い、ミズキの冬芽、クスノキの実、イチヨウの長枝と短枝の役割、ササクサの群落、イヌコウジユとヒメジソの違い、ドウダンツツジ、ヒサカキ、ハクセキレイ、ロウソクゴケ、ヒナノハイゴケ、キマダラカメムシ</p> <p>最後にタチカンツバキを観察して散会となった。</p>	 <p>ユリノキ</p> <p>師走の冬空を背景に枝に残る果実がよく目立つ。枝先に冬芽も見られる。芽鱗はコブシと同様に托葉由来のものという。</p> <p>モクレン科、ユリノキ属の北米東部原産の落葉高木で、明治初期に渡来。花の形がチューリップに似ているので、別名チューリップツリー。初夏に咲く。葉の形が半纏（はんでん）に似ているのでハンテンボク。ただし葉の切れ込みの形は多様で、半纏形になる4裂がふつうだが、6裂のものもある。葉は秋に落葉する。花がチューリップ、葉が半纏（はんでん）、別名の由来がじつに的確で観察眼をかき立てて楽しい。翼果の集合体が枝に残っているが、1枚1枚の細長いへら状のものが果実（翼果）である。この翼果は冬の風をうけて回転しながら種子散布される。同属に中国からベトナムに分布するシナユリノキがある。小石川植物園、越谷アリタキ植物園などで見られる。</p>	 <p>カンツバキ 別名 獅子頭（ししがしら） タチカンツバキ 別名 勘次郎</p> <p>寒椿（カンツバキ）の名があるが、1枚ずつ散ること、子房に毛があることからサザンカの系統とされている。カンツバキ系は雄蕊の一部が弁化して八重咲きで華やかなものが多い。カンツバキ（獅子頭）は横張性で公園の生け垣やボーダーガーデンに欠かせない花木である。なお、立ち性のカンツバキはタチカンツバキ（立寒椿）、別名は勘次郎。航空公園にも多く見られる。このカンツバキの実生、後代から、多くのサザンカの品種が生まれている。カンツバキ系の品種は、花が小輪～中輪、八重咲きで、華やかな品種が多い。サザンカのグループは、①サザンカ品種群、②カンツバキ品種群、③ハルサザンカ群、④タゴトノツキ群がある。</p> <p>《サザンカとツバキの違い》 ①サザンカは開花期が早い。ツバキの多くは春の花 ②サザンカは花弁が1枚1枚散る。ツバキは花ごと落ちる。③サザンカは花の香りが強い。ツバキはほとんど匂わない。④サザンカの葉は小型～中型、ツバキは大型～極大型 ⑤サザンカの子房に白毛がある。ツバキ（ヤブツバキ）の子房は無毛で光沢がある。</p>	

令和6年4月～令和7年3月 いきものガイドウォーク(全10回) 予定と実績

月	日	担当	観察内容	写真1	写真2	コース図
1	25	渡辺 芳野	バードウォッチング			
2	22	松本 佐藤				
3	22	久保 河野				